

骨盤臓器脱（子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤）に対する腹腔鏡手術について

骨盤臓器脱とは子宮や膀胱、直腸が下がり、膣から脱出してくる病気です。出産経験や加齢などにより骨盤の筋肉が緩くなり支えを失ってしまうために起こると考えられています。

従来であれば膣式手術等が一般的でしたが、再発率が高い、膣が狭くなるなどのデメリットが指摘されていました。体に負担が少なく、再発率が少ない新たな治療法として「**腹腔鏡下仙骨膣固定術**」が注目されており、2016年4月から保険適応となりました。

「腹腔鏡下仙骨膣固定術」は膣の壁をメッシュで釣り上げ、仙骨に固定する術式です（図1）。お腹を大きく切らずに穴だけを開けて行う手術です。（図2）

腹腔鏡下仙骨膣固定術は従来の手術に比べ以下のようなメリットがあります。

- ①体への負担が少なく入院期間が短い（6日間）
- ②再発率が少ない
- ③従来法と違い膣が狭くならず、性交渉への影響が少ない
- ④お腹の中を確認しながら手術を行うため、子宮筋腫や卵巣嚢腫、癒着などがあっても安全に手術が行える

デメリットとしては以下のようなものがあります。

- ①手術時間がやや長い（3-4時間程度）

図1 腹腔鏡下仙骨膣固定術のイメージ

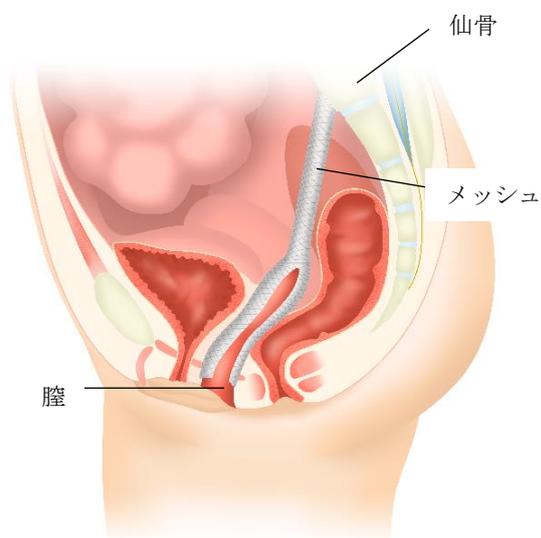


図2 お腹の創部

